

実験交え気象学が

鹿嶋 1期生に修了証

子ども大学

鹿嶋市内の小学4〜6年生を対象にした「かしま子ども大学」の本年度最後の講義が、同市宮中の市まちづくり市民センターで開かれた。参加した約30人の受講生は、実験などを交えながら、気象について学んだ。



かしま子ども大学の気象の講義で古川武彦さん(右から2人目)から気圧に関する実験の指導を受ける受講生たち=鹿嶋市宮中

講師は同市在住の理学博士、古川武彦さんが務めた。古川さんは「空気は目に見えないが重さがある」と説明。水が入ったコップにティッシュペーパーをかぶせ、逆さまにしても水がこぼれない実験をし、気圧について解説した。

このほか、ペットボトルの中に雲を作る実験や、雨風の計測器の実物を見せて気象観測の方法なども説明した。受講生たちは実験の結果に驚きつつも、真剣にメモを取り、気象に関する知識を学んでいた。三笠小6年の大川絆さん(12)は「雲を作る実験が面白かった。授業では学べないことを学ぶことができた」と感想を述べた。

同市による同大学は、子どもの知的好奇心や学問への興味を引き出すことを目的に、今年6月に初めて開講。県と合同だった初回を

除く6回の講義は、鹿島アントラーズFCや日本製鉄鹿島製鉄所など市内の企業、人材が講師を務めた。生は川村等鹿嶋市教育長から一人一人修了証を受け取った。川村教育長は「皆さんが1期生として子ども大学の礎を築いてくれた。子どもの時にいろんな事に興味、関心を持つことは大事。これからも好奇心を持ち続けてほしい」との言葉を贈った。(藤崎徹)